

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

思春期・若年成人（AYA）世代がん患者の包括的ケア提供体制の構築に関する研究
AYA 世代がん患者の長期フォローアップ体制の構築に関する研究

研究分担者 前田 美穂

日本歯科大学生命歯学部小児歯科学講座 客員教授

研究要旨：AYA 世代がんの経験者の長期フォローアップは、治療した施設で長期間にわたり行うことは困難である。一般の日常診療を行うクリニックなどでフォローアップをし、必要に応じて専門病院へ紹介するシステムができないかを模索する目的で日本医師会に所属するクリニックの医師を対象にアンケートを行うこととし、その準備としてアンケートの作成、文献の整理、実際の症例におけるシミュレーション、治療サマリーの作成などを行った。

A. 研究目的

AYA 世代発症のがん経験者あるいは小児期に発症した AYA 世代に達したがん経験者にとって長期フォローアップは非常に大切である。しかし、現実にはがん治療を行った診療科での長期フォローアップは必要と理解されながらも困難を極める。最も実現可能な長期フォローアップに関して、一般の日常診療を行うクリニックでのフォローアップを目指し、クリニックの医師の現状、意識、などを調査し、実際への可能性を考察していく。その際に綿密なアンケートの作成、文献の整理、実際の症例におけるシミュレーション、治療サマリーの作成なども行い長期フォローアップ体制確立の基礎を作ることを目的とした。

B. 研究方法

- ① クリニックの医師へのアンケートの対象を日本医師会会員とした。日本医師会の担当部署と面談、メールを頻繁に行い、文献の整理とともに、対象者の抽出条件の決定、アンケート内容の決定を行った。
- ② 小児がん経験者が AYA 世代になっていった場合の成人科での診療への移行に対する必要事項の検討をカンファレンス形式にて行った。
- ③ AYA 世代発症のがん患者の長期フォローアップに不可欠な治療内容を本人が把握し、年齢とともに移行する医療者への受け渡しがスムーズに間違いなく行われるための治療サマリーの原案の作成を行った。

C. 研究結果

- ① 上記趣旨に沿ったアンケート調査

について日本医師会会長の許可を得た。

- ② 対象者を 30 歳から 70 歳までの内科系診療科を標榜する医師とした。男女、および医師会への登録場所は、日本医師会会員全体の割合に準じた。
- ③ AYA 世代に達した小児がん経験者の成人科への移行に対して、成人の複数診療科とカンファレンスを行い、小児がん経験者が陥る可能性のある晚期合併症などについて討議を行った。これを AYA 世代発症のがんの経験者にも応用できると考えた。
- ④ 小児がん経験者の治療サマリーを JCCG 長期フォローアップ委員会委員フォローアップ委員会の許可を取り、これをもとに AYA 世代がんに一般的な治療薬などを加えたサマリー案を考案した。

D. 考察

がん経験者の長期フォローアップは非常に重要と考えるが、現在はごく一部の経験者しか長期フォローアップを受けていないと考えられる。現実としてがんは治癒し、晚期合併症に関して見ていくことは大切ではあるが、スクリーニングの要素が強いと考えられるフォローアップに関してがん患者の治療も行う立場の腫瘍専門医には人的余裕がないなどの問題にも直面する。そこで、系統立ててスクリーニングをしていくのに適しているのは一般クリニックの医師ではないかと考えた。しかし

クリニック医師の考え方、現実の状況をみないでお願いすることはできない。そこで、クリニックの医師を対象に、医師の現状、考え方、こういったがん経験者のフォローアップに対する問題点などを調査することとした。この結果を基にがん経験者の長期フォローアップに関して、現実に即した対応を考えられるのではないかとと思われる。またクリニックの医師ががん経験者のフォローアップの中心となる場合は、フォローアップの方法、問題点を明らかにする必要がある。症例の検討カンファレンスからも問題点が指摘できると考えている。さらに治療サマリーが充実すれば例えば累計的に心筋症などの晚期合併症の可能性が上昇されるとするアントラサイクリン系抗がん剤の投与量や妊孕性に関連しているとされるはアルキル化剤、二次がんを引き起こす可能性のある薬剤や放射線照射などの有無を知ることが可能となる。このことはその後のフォローアップに関連しており、特に重要である。

E. 結論

AYA がん経験者の長期フォローアップに関して、それを担う医療者の現状を知るために日本医師会会員に対しての実態や考え方のアンケート調査を計画し、準備がほぼ整った。小児期から AYA 世代になったがん経験者に対して、成人科と小児科とが必要とされる事項を検討した。受けたがんの治療のサマリーが明確になるようなフォームを考案した。

F. 健康危険情報

G. 研究発表

論文発表

1. Kazuko Kudo, Miho Maeda, Nobuhiro Suzuki, Hirokazu Kanegane, Shouichi Ohga, Eiichi Ishii, Yoko Shioda, Toshihiko Imamura, Shinsaku Imashuku, Yukiko Tsunematsu, Mikiya Endo, Akira Shimada, Yuuki Koga, Yoshiko Hashii, Maiko Noguchi, Masami Inoue, Ken Tabuchi, Akira Morimoto, The Histiocytosis study group of the Japanese Society of Pediatric Hematology/Oncology. Nationwide retrospective review of hematopoietic stem cell transplantation in children with refractory Langerhans cell histiocytosis. *Int J Hematol* 2019 Nov 22. DOI 10.1007/s12185-019-02760-5
2. Kumamoto T, Aoki Y, Sonoda T, Yamanishi M, Arakawa A, Sugiyama M, Shirakawa N, Ishimaru S, Saito Y, Maeshima A, Maeda M, Ogawa C. A case of

recurrent histiocytic sarcoma

with MAP2K1 pathogenic variant

treated with the MEK inhibitor

trametinib. *Int J Hematol*.

2019 ; 109(2):228-232.

3. Ueda T, Migita M, Itabashi T, Tanabe Y, Uchimura R, Gocho Y, Yamanishi M, Kobayashi F, Yoshino M, Fujita A, Yamanishi S, Kaizu K, Hayakawa J, Asano T, Maeda M, Itoh Y. Therapy-related Secondary Malignancy After Treatment of Childhood Malignancy: Cases from a Single Center. *J Nippon Med Sch*. 2019; 86(4):207-214.
4. Kameoka R, Kawakami T, Maeda M, Hori T, Yanagisawa A, Shirase T. Denral management of a childhood cancer survivor with malformed primary teeth. *Ped Denral J*. 2020 ; 30:45-50.
5. 七野浩之、吉本優里、山中純子、瓜生英子、田中瑞恵、佐藤典子、加藤元博、寺島慶太、富澤大輔、松井基浩、文野誠久、菱木知郎、土井 崇、谷ヶ崎 博、副島俊典、浅妻 伴、大野 孝、野澤久美子、宮寄 治、山本暢之、長谷

川大一郎、西村範行、前田美穂、
義岡孝子、堤 義之、米田光宏、
松本公一。開発途上国における小
児がんの診療能力強化。情報メデ
ィカル 2019; 51(4): 5-12

6. 前田美穂 白血病治療後のサバイ
バーシップ。医学のあゆみ 2019;
268(1): 77-82.

学会発表

1. Aoki Y, Hayakawa A, Koike K,
Tauchi H, Ishii E, Koh K,
Miyamura T, Ishida Y, Kada A,
Saito A, Manabe A, Horibe K,
Mizutani S, Maeda M, Tomizawa
D. Late effects insurvivors of
infant acute lymphoblastic
leukemia from the 3 consecutive
Japanese national trial.
61 st ASH Annual Meeting.
2019/12/9 海外 USA Orland、ポ
スター
2. 前田美穂. 小児がんの内分泌診
療：現場のニーズとガイドライン。
第 53 回日本小児内分泌学会 シ
ンポジウム 2019/9/28 国内 京
都市 口頭発表
3. 前田美穂. 小児・AYA 世代がんの
長期フォローアップ。東北次世
代がんプロ養成プラン 2019 年イ
ンテンシブコース第 2 回セミナー
国内 山形市 2019/1/17 口頭
発表
4. Shuichi Ozono, Kazuo Sakashita,
Nao Yoshida, Harumi Kakuda,
Nobuyuki Hyakuna, Hideki

Nakayama, Kenichiro Watanabe,
Miho Maeda. A nation-wide
survey of late effects of juvenile
myelomonocytic leukemia. 第 61
回日本小児血液・がん学会
2019/11/16 国内 広島市

5. Akira Hayakawa, Yuki Nogami,
Kazutoshi Koike, Hisamichi
Tauchi, Eiichi Ishii, Katsuyoshi
Koh, Takako Miyamura, Yasushi
Ishida, Akiko Saito, Keizo Horibe,
Atsushi Manabe, Miho Maeda,
Daisuke Tomizawa. Late effects
of infant acute lymphoblastic
leukemia:JILSG96/98&JPLSG
MLL03 study follow-up. 第 61 回
日本小児血液・がん学会
2019/11/16 国内 広島市
6. 板橋寿和、植田高弘、福永遼平、関
根鉄朗、右田 真、前田美穂、伊藤
保彦。感染症との神部齧を要した
肺病編を認めたホジキンリンパ腫
の 1 例。 第 61 回日本小児血液・
がん学会 2019/11/16 国内 広
島市